

殺菌消毒薬(特殊絆創膏を含む)

製品群No. 54

資料4-33

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)		H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		用法用量	効能効果	
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)		スイッチ化等に伴う使用環境の変化				
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ				
殺菌消毒成分	アクリノール液	グラム陽性、陰性菌に有効で、特に連鎖球菌、ウェルシュ菌、ブドウ球菌、淋菌に対し、静菌及び殺菌作用がある。作用機序は、生体でアクリジニウムイオンとなり細胞の呼吸酵素を阻害する。					頻度不明	頻度不明(過敏症)							・大量服用時には、悪心、嘔吐、腹痛、下痢、肝機能障害 ・外用にのみ使用し、内服しないこと			0.05~0.2w/v%の液として使用する。	化膿局所の消毒 泌尿器・産婦人科術中術後 化膿性疾患(せつ、よう、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎)	
	エタノール	消毒用エタノール OTCとして使用されているのは「消毒用エタノール」と同じ濃度	本剤は、使用濃度において芽生型細菌(グラム陽性菌、グラム陰性菌)、酵母菌、ウイルス等には有効であるが、芽胞(炭疽菌、破傷風菌等)及び一部のウイルスに対する殺菌効果は期待できない。エタノールの殺菌力上の最適濃度については、その試験方法により一定しないが、通常70%と称してよく、この濃度においては皮膚に対して広範囲に及ぶ揮発性も適度で、表皮を損傷することもなく、無害である。				頻度不明(刺激症状)	頻度不明(過敏症)		損傷皮膚及び粘膜(刺激)				・経口投与しないこと ・同一部位に反復使用する場合には、脱脂等による皮膚荒れを起すことがある ・過量投与：全身の熱感、味覚・嗅覚機能の低下、顔面紅潮、発汗、悪心、嘔吐、急性胃炎、マロリーワイス症候群、口渇、利尿、痛覚閾値の上昇、呼吸促進、心悸亢進、血圧下降、多幸感、酩酊、身体失調、歩行困難、急性アルコール性ミオパチー、記憶障害、感情不安定、代謝性アシドーシス、低血糖、体温低下、脱水、失禁、肝機能障害、呼吸抑制、昏睡(エタノールの血中濃度が0.4~0.5%で呼吸停止が起る)、催眠剤との同時服用や頭部外傷の合併にも注意する。		本品をそのまま消毒部位に塗布する。	手術・皮膚の消毒 手術部位(手術野)の消毒			

殺菌消毒薬(特殊絆創膏を含む)

製品群No. 54

資料4-33

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果	
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく留意性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)				スイッチ化等に伴う使用環境の変化
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの					使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ		
殺菌消毒成分	塩化ベンザルコニウム	0.1w/v%ナミトール水						頻度不明(過敏症)		粘膜、創傷面または炎症部位に長期間または広範囲に使用しないこと				<ul style="list-style-type: none"> ・原液は皮膚・粘膜に付着及び眼に入らないように注意する(刺激性がある)。 ・炎症または易刺激性の部位(粘膜、陰股部等)への使用:正常の部位への使用より低濃度とすることが望ましい。また、使用後は滅菌精製水で水洗する。 ・深い創傷または眼に使用する希釈水溶液は、調製後滅菌処理すること。 ・経口投与しないこと。洗滌には使用しないこと。 ・密封包装、ギプス包帯、バックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 		<ul style="list-style-type: none"> ①手指・皮膚の消毒:通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落とし、塩化ベンザルコニウム0.05~0.1%溶液に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で拭拭する。術前の手洗の場合には、5~10分間ブラッシングする。 ②手術部位(手術野)の皮膚の消毒:手術前局所皮膚面を塩化ベンザルコニウム0.1%溶液で約5分間洗い、その後塩化ベンザルコニウム0.2%溶液を塗布する。 ③手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒:塩化ベンザルコニウム0.01~0.025%溶液を用いる。 ④感染皮膚面の消毒:塩化ベンザルコニウム0.01%溶液を用いる。 ⑤医療用具の消毒:塩化ベンザルコニウム0.1%溶液に10分間浸漬するか、または厳密に消毒する際は、器具を予め2%炭酸ナトリウム水溶液で洗い、その後塩化ベンザルコニウム0.1%溶液中で15分間煮沸する。 ⑥手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒:塩化ベンザルコニウム0.05~0.1%溶液を布片で塗布・拭拭するか、または噴霧 ⑦履洗浄 塩化ベンザルコニウム0.02~0.05%溶液を用いる。 ⑧結膜囊の洗浄・消毒 塩化ベンザルコニウム0.01~0.05%溶液を用いる。 	

殺菌消毒薬(特殊絆創膏を含む)

製品群No. 54

資料4-33

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 蓋用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別(注意を要する(適応を誤るおそれ))	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上り過ぎるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
殺菌消毒成分	塩化ベンゼトニウム	ハイアミン液	芽胞のない細菌、真菌類に広く抗菌性を有し、グラム陰性菌よりも高濃度で効果を示す 一方、結核菌及び大部分のウイルスに対する殺菌効果は期待できない					濃度不明(過敏症)							<ul style="list-style-type: none"> ・原液は皮膚・粘膜に付着及び眼に入らないように注意する。 ・炎症または易刺激性の部位(粘膜、陰股部等)への使用時は低濃度 ・経口投与しないこと。 ・密封包装、ギプス包帯、パックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。 ・深い創傷又は眼にしようする場合は希釈液は注射用蒸留水か滅菌精製水を使用 	<ul style="list-style-type: none"> 全身吸収による筋力をおこすおそれがあるため、粘膜、創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しない。 		<ol style="list-style-type: none"> ①通常おけんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い流した後、塩化ベンゼトニウム0.05~0.1%溶液(本剤の100~200倍希釈液)に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で拭拭する 術前の手洗の場合には、5~10分間ブラッシングする ②手術前局所皮膚面を、塩化ベンゼトニウム0.1%溶液(本剤の100倍希釈液)で約5分間洗い、その後塩化ベンゼトニウム0.2%溶液(本剤の50倍希釈液)を塗布する ③塩化ベンゼトニウム0.01~0.025%溶液(本剤の400~1,000倍希釈液)を用いる ④塩化ベンゼトニウム0.01%溶液(本剤の1,000倍希釈液)を用いる ⑤塩化ベンゼトニウム0.025%溶液(本剤の400倍希釈液)を用いる ⑥塩化ベンゼトニウム0.02%溶液(本剤の500倍希釈液)を用いる ⑦塩化ベンゼトニウム0.1%溶液(本剤の100倍希釈液)に10分間浸漬するか、または密閉に消毒する際には、器具を予め2%炭酸ナトリウム水溶液で洗い、その後塩化ベンゼトニウム0.1%溶液(本剤の100倍希釈液)中で15分間煮沸する ⑧塩化ベンゼトニウム0.05~0.2%溶液(本剤の50~200倍希釈液)を布片で塗布・拭拭するか、または噴霧する 	<ol style="list-style-type: none"> ①手指・皮膚の消毒 ②手術部位(手術野)の皮膚の消毒 ③手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒 ④感染皮膚面の消毒 ⑤腔洗浄 ⑥結膜のうの洗浄・消毒 ⑦医療用具の消毒 ⑧手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒

殺菌消毒薬(特殊絆創膏を含む)

製品群No. 54

資料4-33

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	機能効果			
		薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ				重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性					適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	症状の悪化 につながるお それ
評価の視点	薬理作用	相互作用		薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそ れ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	スイッチ 化等に伴う使 用環境の変 化	用法用量	機能効果
		併用禁忌(他 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意									使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ		
殺菌消毒成分	オキシドール オキシドール	殺菌消毒作用				空気霧栓		速用: 口腔粘 膜刺激		瘻孔、挫創等本剤 を使用した際に体 腔にしみ込むおそ れのある部位			易刺激性の部位 に使用する場合 には、正常の部 位に使用する場 合よりも低温度と する 深い創傷に使用 する場合の希釈 液としては注射 用水か滅菌精製 水を用い、水道 水や精製水を用 いない 外用にのみ使用 し、内服しないこ と	長期間又は 広範囲に使用 しないこと	① 原液のままあるいは2 ～3倍希釈して塗布・洗浄 する。 ② 原液のまま塗布、滴下 あるいは2～10倍(耳科の 場合、時にグリセリン、ア ルコールで希釈する)希釈 して洗浄、噴霧、含嗽に用 いる。 ③ 原液又は2倍希釈して 洗浄・拭掃する。 ④ 10倍希釈して洗口する。	① 創傷・潰瘍 の殺菌・消毒 ② 外耳・中耳 の炎症、鼻炎 咽喉頭炎、霜 凍炎等の粘膜 の炎症 ③ 口腔粘膜の 消毒、扁桃(う か)及び根管 の清掃・消毒、 歯の清掃 ④ 口内炎の洗 口